第１学年○組　学級活動（１）指導案

令和３年○月○日（○）第○校時
指導者　教諭○○○○
男子○名　女子○名　計○名

１　議題　「SDGsの観点で学級をよりよくするための取組を考えよう」
　　　　　　（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

２　議題について

　⑴　生徒の実態

　　　本学級の生徒は明るく活発で、授業では自主的に挙手したり、話合い活動に積極的に取り組んだりする姿が見られる。また、集配や掲示の仕事や教室の窓閉めなど、自ら気付いて協力する姿も見られる。
　４月当初、生徒たちはそれぞれの不安と期待がある中で学級の組織をつくり、それぞれの考えを出し合いながら学級をつくってきた。感染症対策が叫ばれる中、それに合わせた制約のある生活も、出し合った工夫を生かしながら協力して学校生活を行ってきた。１学期には、給食の配膳に時間がかかり効率が悪いことや感染症対策に課題を見いだし、学級会を行った。そこでは、改善策について意見を出し合い、「①並び方のルール化、②声を掛け合う内容」について合意形成を図ることができた。その後、学級全体で合意形成したことについて取り組んだことで、感染症対策と食事時間の確保への意識が高まった。しかし、気の緩みから実践できない日も見受けられた。また、学級の全員が積極的に話合いに参加したり、発表したりすることができているわけではなく、話合いにおける自己開示に苦手意識をもっている生徒もいる点も課題である。
　その後、2学期に行ったアンケートの結果では、「自分の意見や考えをもつことができる（ノート等に書くことができる）」の自己評価が5段階評価で、５が最も少なく6.9％。一番多い評価が２の34.5％と、低いことに対し、「自信をもって自分の意見を発表することができる」は４が最も多く、31.0％である。発表できると自己評価する生徒がいる一方で、ノートでまとめるといったことを苦手と考えている生徒が多い。2学期には、学級に関わるメンバーが分け隔てなく協力し、合唱祭を通して学級がより良くなるようにという生徒たちの願いを学級活動委員会が取り上げ、学級会を行った。そこでは「①『歌楽風流～響かせようクラスのメロディー～』というスローガンの決定、②練習方法やカウントダウンカレンダーの作成」について合意形成を図ることができた。
　今後2学期のまとめの時期に向け、グループ活動で評議委員や班長、司会役などが意見を求めることや仲間の発言を手助けすることで、生徒全員が安心して自分の考えを言えるようにしていきたい。そして、互いの意見や考えを認め合いながら話し合い、生徒一人一人全員が自分事として考え、解決に向けて主体的に合意形成ができるようにしていきたい。

　⑵　議題選定の理由

　　　夏休みを終え、例年に無い短い準備期間での体育祭と合唱祭で団結した今、一層学級としての団結感を高めさせたい。また、そのために課題である「自分の意見を学級会ノートに記入できるようになること」と「全員が自信をもって自分の意見を発表することができるようになること」に向けて、学級活動委員会を中心とした学級会を行うことで、学級生活がさらに充実できると考える。
　学級活動委員会の反省からも、生徒たちはこれまでの学級会を通して「発言をする人が増えてはきたが、未だに一部の生徒に偏っていること」と、「全員が自分の意見を持ち、話し合いに参加できているのかどうか」を課題と感じ、学級会で学級全体の合意形成ができるようにしていきたいと願っている。そこで、事前の学級会アンケートから出た、「SDGsの目標《11．住み続けられるまちづくりを、12．つくる責任 つかう責任、13．気候変動に具体的な対策を》についてクラスで出来ることを考えよう」という意見を学級活動委員会が取り上げ、議題化を図った。本議題は、学級活動委員会の生徒たちの「学級をよりよくするための活動」につなげようという願いから選定された。

３　第１学年の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
| 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。 | 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 | 学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。 |

４　事前の活動

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時活動の場 | 生徒の活動○学級活動委員会の活動●全員の活動 | 指導上の留意点 | ◎目指す生徒の姿【観点】（評価方法） |
| ○月○日（○）帰りの会放課後 | ●議題を出す。○出された議題から望ましい議題を２～３個選定する。 | ・議題を選定する際の視点について助言する。 | ◎よりよい学級生活を目指し、進んで議題を考えたり決めたりしている。【態】（観察、提案カード） |
| ○月○日（○）帰りの会 | ●議題を決定する。 | ・必要感や切実感を全員が共有できるように、学級活動委員の提案のもと、全員で議題を決定する。 |  |
| ○月○日（○）放課後 | ◯活動計画を作成する。 （提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること（条件）、役割分担等）〇学級活動コーナー等に掲示する。 | ・提案者の思いが全員にも伝わるように提案理由の練り上げに努めるようにする。・日時や場所等の条件を教師が設定して伝える。・前回までの反省を生かすという視点について助言する。 | ◎学級活動委員の役割や取組を決めるための話合いの進行の仕方等を理解している。【知】（活動計画、観察） |
| ○月○日（○）帰りの会 | ◯話し合うことを全員に知らせる。●学級活動ノートに自分の考えを記入する。 | ・話し合うことや決まっていることが共通理解できるよう助言する。・提案理由に沿った意見を学級会当日に発表できるように書くことができるように助言する。 |  |
| ○月○日（○）放課後 | ◯回収した学級活動ノートに目を通し、意見を整理する。◯必要に応じて、可視化できる資料や短冊を用意する。 | ・話合いの見通しをもつことができるようにする。特に反対意見等への解決策を求める言葉かけや、意見が出ない提案内容について意見がないか投げかける言葉かけなど、すべての意見を大切にして、次の意見につなげられるような学級会運営の方法を具体的に確認しておく。・必要に応じて、短冊への記入をしておく等の助言を行う。 | ◎よりよい学級生活を目指し、進んで議題を考えたり決めたりしている。【態】（学級活動ノート） |

５　本時の展開

　　⑴　本時のねらい

　よりよい学級生活をつくるため、学級の一員としての自覚を高め、よりよい学級にするために主体的に意見を伝えるとともに、他者の意見を尊重した、集団での合意形成ができるようにする。

　　⑵　指導計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 活動の計画 | 指導上の留意点　 | ◎目指す生徒の姿【観点】（評価方法） |
| １　はじめの言葉２　学級活動委員の紹介３　議題の確認４　提案理由の確認５　決まっていることの確認６　話合いのめあての確認７　教師の話 | ・学級会の進め方に基づいて行われる話合い活動にする。・学級全体の問題であることを確認し、事前指導をもとに自主的に学級会が運営できるように促す。[提案理由]　創造の時間ではSDGsについて調べ、学習し、自分ができることについて考えることを行いました。そこで、私たちの日常の学校生活でもSDGsの観点から学級生活を見直すことで、さらによりよい学級になると思います。また、その取組から、体育祭や合唱祭に向けた取組と同じように一層学級として団結していきたいと思い提案しました。・何について、いくつの取組を決定するか等、黒板に掲示し、意識を高めさせる。・冒頭では、話合いを深めるために、前回の話合いの反省点を意識させ、生かせるようにする。・友達の意見もよく聞き、それを受けての意見も言えるように、例示を加えて伝える。 |  |
| ８　話合い　話し合うこと①「SDGsの項目11．12．13．について、学級でできる取組を決めよう」　話し合うこと②「取組の具体的な達成目標を決めよう」　話し合うこと③「役割分担を決めよう」 | ・「出し合う→比べる→まとめる」の３段階討議法を基本とし、事前に「出し合う」を短冊にまとめて提示する。・話し合うこと②についても、事前に考えられるものは学級会ノートに意見を記入し、発表しやすいようにする。・学級会ノートを活用し、議題に沿って話合いが行われるように適宜助言を行う。具体的に取り組める方法を話し合えるようにする。・個人の意見を汲み取り、学級全体が目指す方向を固められるように他者の意見を聞き、合意形成ができるよう助言する。・理由をもとに、根拠をもって最終決定ができるような運営を意識させ、全員の拍手で学級全体が合意形成できたことを意識付けられるようにする。 | ◎学級の一員としての自覚を高め、合唱祭に向けて主体的に意見を出そうとしている。【主】（観察：発言）◎友達の意見を聞いて、考えを深めている。【思】（観察：発言、学級会ノート） |
| ９　決まったことの確認10　振り返り11　教師の話12　おわりの言葉 | ・話合いのめあてを達成できたか振り返らせる。・はじめの教師の話で投げかけた課題が達成できていたかどうかを主軸に、前回の学級会よりよくなった点を話し、学級活動委員の活動とよりよい話合いに導いた発言者を称賛する。 |  |

６　事後の活動

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 生徒の活動 | 指導上の留意点 | ◎目指す生徒の姿【観点】（評価方法） |
| ○月○日（○）～○月○日（○） | ・決まったことを教室に掲示し、決めた取組を実践する。 | ・活動意欲を継続できるよう、役割ごとの報告を取り入れるなど、適宜生徒が課題をもって取り組めるように助言する。 | ◎目標を意識し、友達と協力しながら実践に取り組んでいる。【思】（観察、振り返りシート）◎行事を通して身に付けた考えや行動を振り返り、これからの生活に生かそうとしている。【態】（観察：学習会　カード） |
| ○月○日（○）放課後 | ・学級活動委員会による取組の経過確認 | ・今後の取組継続に向けた前向きな声掛けや計画ができるように意識して、達成目標と活動成果を比較するように助言する。 |
| ○月○日（○）学級活動 | ・2学期の取組の振り返り | ・3学期に向けて、2学期を通してSDGsの観点での学級をよりよくするための取組を含めた学校生活についての振り返りを行う。 |